

院生研究室から

「このまま多量の飲酒を続けて幸せに短く生きることが自身の目標」「無理なトレーニングを積み、一度でも世界一になれば後の人生や自分の体はどうでもいい」、このような考えを持つ人物が「健康・健幸な状態ではない」と、あなたははっきり言うことができるだろうか？言えるのであれば、その理由をはっきりと説明することはできるのだろうか？

人間の健康とは何か？健幸とはなにか？この疑問に対して、明確な1つの回答を示すことは難しいだろう。なぜなら、この健康・健幸というものは、単に寿命が長いこと、栄養状態が良好であること、運動習慣の形成にて運動能力が高いこと等を表すものではなく、人間個々によって目指すべき姿が全く違うものであるからである。そして、それ故に、その人間個々が考える健康・健幸について、他者が容易に否定してよいものではないだろう。

では、上記のような曖昧で複雑な人の健康・健幸という概念について研究する我々は、政策や支援方法について検討する中で、どのような考えを持ち、どのように学びを重ねる必要があるのか。私は、その答えとして、1つの分野にこだわることなく、人体の機能、死生観、心理、宗教、スポーツ、福祉、発達、経済等々挙げるときりがないものの、人間や社会を形成する様々な学問を学ぶことが必要と考えている。自身の世界を広げ、多角的に物事を「観」て、この我々が生きる人間社会には様々な考え方や物事があることをより現実的に認知する。この学びが、自身が支援を行う社会や支援相手にとっての、真の意味での健康・健幸について考えるための下地になると私は考える。

本院生研究室には、実に多種多様な分野の研究活動で研鑽を積む学生がいる。もちろん、学生が研鑽を積むための多種多様な分野のスペシャリストである教員がおり、その講義を自身の研究分野問わず受講することが可能である。私のように、社会人生活と学生生活を二足の草鞋を履いて行う学生もいる。博士課程前期課程に絞れば、約半数が他国のルーツを持つ外国人留学生である。どうだろうか。私はこの環境を、人間の健康・健幸について研究活動を行う場として素晴らしい環境であると考えている。

私自身、山縣教授に師事しながら自身の子育て分野の研究をしつつ、他教員や学生との関わりを積極的に持つ中で、自身の思考力の成長と視野の広がりを実感している。ぜひ、現在所属する大学院生、今後本研究科への入学を検討するまだ見ぬ大学院生には、この素晴らしい研究室の恩恵を意識し活用していただきたい。私自身はもうすぐ大学を去る身であるが、この素晴らしい環境が、続く院生たちにも継続することを祈り、可能であれば今後もなんらかの形で大学との関わりを続けていきたいと考えている。

乱文ながらここまでお読みいただいたことに感謝し、結語とさせていただきます。

人間健康研究科博士課程前期課程
友末泰弘